

◆梅岡菊子 選 ～滑稽俳句協会会報より～

鶯に口説かれ梅の狂ひ咲き 岡野 満

「口説く」「狂い咲き」、なにやら人間臭いですね。梅と鶯の句でこれほど遊んだ句は初めてです。科学のことはわかりませんが、鶯が嘴で梅の蕾をつついた。刺激を受けて咲いた。そんなところでしょうか。

ぶらさがるだけの拷問糸瓜棚 小林英昭

糸瓜棚の下、糸瓜を見て、拷問をうけていると感じたのがいいですね。普通は拷問とは感じない。それを拷問と感じた頭の柔らかさ。脱帽です。

地動説どうでもよくて大根引 有富洋二

滑稽は権威をからかうのが面白いですね。地動説という権威をからかって壮大な句です。

虹二重三角関係に悩む神 高橋きの子

二重虹に三角関係を連想したのが素晴らしい。俳句はどこか小難しい、とりすました文芸という観念を簡単に破りましたね。

パンプスのトンネル潜り蟻の列 上山美穂

ハイヒールは蟻にとって巨大なビルディングである。だから、蟻にしてみれば楽しいトンネル潜りである。女性が蟻の列を見降ろしながら歌っている風景は楽しい。

扇風機女医の太腿ちらつかす 柳澤京子

色気のある句ですが、とても上品に仕上がっています。この句の作者が女性であることも驚きです。

◆伊藤洋二 選 ～滑稽俳句協会会報より～

止り木に空席のなき秋灯 飛田正勝

森進一さんの「止まり木のブルース」がヒットした昭和六十一年頃、行きつけのスナックの「止まり木」は確か十席足らずでし

---

た。ドアを開けて空を確認し徐に腰を掛け、おしぼりを受取る。憂さ晴らしの舞台が完成です。ママさんの笑顔で満席もしばしば。時間つぶしは焼き鳥屋で一寸一杯！折しも秋雀が止まり木を求めてネオンの街をうろうろと、想い出溢れ懐かしき哀愁句です。

**独り言聞かれてしまい石蓐の花** 藤原セツ子

心願成就を祈念し、おみくじを引きました。末吉でしたので少々不安が募り神前では開けませんでした。帰りの参道に人影はなく握りしめたお告げは、汗ばんでいます。意を決して見ると「鳥は飛び方を変えられないが、人間は生き方を変えられる」。呟くと石蓐の花が頷いていました。決心の句です。

**七五三祝ふ祖父より五七五** 八洲忙閑

夏休みで帰省中の小学二年男子と幼稚園年中女子に俳句の話をしましたが勿論理解できる年齢ではありません。この日のために用意していたのが“俳句の絵皿”。「島浮きつ伊予灘暮るる海市かな」「遠花火海より低き干拓地」。喜んで“筆者の歴史”を持ち帰りました。今日もまた「爺じ」張り切るこの一句。

**逆送をしたき心地の師走かな** 横山喜三郎

カーナビが有るとは云え、初めての高速道路は勝手が違い複雑なJCTでは間違った方向へ、予期しない地名が現れてきます。SAで地図と睨めっこ。

さてどうしようかと算段するも哀しきかな「一方通行」。最寄りのICで復帰。  
「無意識の逆送」を報じる昨今、安全運転を心がけよう。“急がない急がない”

**風邪気味の鼻に押しこむ内視鏡** 笠 政人

内視鏡と云えば健康診断での胃カメラがあります。ファイバースコープの発達で細くなり、鼻からの胃カメラで検査が楽に。長寿を全うするため、貝原益軒先生の養生訓に学ぶ。まず内にある四つの欲を抑えるため我慢する事は、①あれこれ食べてみたいという食欲、②色欲、③むやみに眠りたがる欲、④徒らに喋りたがる欲、③のみ実践中。

**うぐいすが仲間と思う歌手冥利** 佐藤義子

---

最近、滑舌が悪くカラオケの点数が伸びない。息が続かず演歌の高音域のこぶしが廻らないのだ。そこで独特の低音で多くの人を魅了し、歌謡界に大きな軌跡を残したフランク永井さんにシフトしております。吉田正先生の作詞・作曲「霧子のタンゴ」、素晴らしい。「フクロウにパート頼まれバスの音」。

**「食べられる？」孫の尋ねる烏瓜** 田中早苗

小学二年男の孫が俳句のメール。「菊の花食べられるってほんとなの」。夏休みの“俳句絵皿”の成果かもしれない。正月の帰省が楽しみである。

**凶らずも黄泉路からきた年賀状** 久松久子

「明日ありと 思う心の仇桜 夜半に嵐の 吹かぬものかは」。「仇桜」とは散りやすい桜の花。毎年、「喪中はがき」は何通か娑婆から頂戴しておりますが、黄泉路からの賀状は未だ無し。筆者は、毎年、最終大安日の投函としている。